

平成23年議会 第2回 定例会

【町長】

通告順	質問議員	質問項目	質問の内容
1	中村議員	金平町長の所信を問う	<p>御当選・ご就任に祝意を申し上げますと共に、勇気ある決断に敬意を表します。</p> <p>さて、政策的な主張を聴かないままで、町政執行方針を見させて頂きましたが、7項目の基本政策は今までの町政とどこが違うのか。</p> <p>また、政策予算を作るにあたって、どのような「町民との対話と相互理解」を図ったか。</p> <p>更に、政策予算の中で、「これが目玉政策」と言えるのはどれか。</p>
2	高田議員	小学校改築事業の見直しについて	<p>沼田小学校改築計画から、エコスクールの象徴であった雪冷房を取りやめる計画となりました。</p> <p>1. 町長の執行方針の中に「費用対効果を考えて」とあるが、教育現場に過度な効率を求めることを是とするのか。</p> <p>2. 既設の利雪施設（ゆめっくる・養護老人ホーム等）も費用対効果に乏しいと考えているのか。</p> <p>3. 雪の町を宣言している沼田町にとって、従来の流れに逆行する計画変更と考えるが、利雪に関する基本的な考え方を伺う。</p>
3	絵内議員	ごみの収集について	<p>今回、ごみの回集方法に付いての改善策が検討されていますが、町内にゴミステーションがあればとの事でした。</p> <p>町民方はその補助を出してほしいとの声が多くありましたので出して上げるべきと思いますが、町長の見解を伺います。</p>
4	長原議員	遊休資産の活用について	<p>中学校の移転により、旧校舎、体育館、グラウンド等の内、体育館について、他に活用する事ができないものか？伺いたい。</p> <p>床部分を改修し、野球、サッカーの冬季練習場、あるいはゲートボール場等にして利用してはどうか伺いたい。</p> <p>又、旧高校職員住宅について、現状のままなのか、町民のために活用できないか、お聞きしたい。</p>

5	鵜野 議員	過疎化対策について	<p>今、地方が抱える大きな問題は急激に進む過疎化があります。</p> <p>当然、沼田町においても例外ではなく、町政執行方針の中でもこの事が述べられていますが具体的な政策が示されていないがこの問題にどの様に取り組んでいくのか新たな視点からの考えを伺いたい。</p>
6	渡邊 議員	沼田町の防災対策について	<p>東日本大震災以後、各地で防災対策の再検討が行なわれていますが、</p> <p>我が町も過去には直下型地震や大水害の被害にあっています。</p> <p>町長には町民の生命と財産を守る義務があると考えます。その意味から、災害への準備と、もしもの備えが必要で、場合によっては、想定外の対応も検討が必要と考えます。ダムや自衛隊施設も含めて、町関連施設の防災対策は大丈夫なのか。災害避難マップの見直しの必要や、災害時備蓄が充分なのか伺います。</p>
7	上野 議員	「萌の丘」について	<p>今年の「萌の丘」はあたり一面タンポポ畑となりほとんど「ルピナス」の花は見うけられない。</p> <p>雑草に負けてしまって、元のルピナス畑に戻すには相当の予算を投資しなければならないと思う。</p> <p>今年からは「萌の丘」の整備を止めて無駄な経費を押えた方が良くと思いますが、町長の考えをお聞かせ下さい。</p>
8	久保 議員	沼田町の子どもたちの食育、地産地消、健康（心と体）のためのごはん給食「検討委員会」を、1学期中に設置しますか？	<p>4年前の統一地方選挙のキーワードが「閉塞感」であり、今回は「スピード感」であると痛感いたします。その象徴が3・11以来、沼田町の自衛隊員らも汗を流しつつ、いまだ果てしなく積み上げられ広がったままのガレキなのでしょう。もはや試されているのは、我々地方議員でもあり、首長以下の職員のみならずであると思います。たとえば今、「ごはん給食」をめぐる保護者などの間で日々、会議などが設けられていることは既にご存知であると思います。この熱意は、冷や飯を食べている子どもたちのために「米飯給食への要望書」として2007年に沼田小学校PTA（会長；荒木勉さん・当時）から、2009年に農業女性団体・農天氣の会（会長；中村富美子さん・当時）、今年はJA北いぶき青年部（沼田支部長；前川智基さん）から提出されています。我々は町民が行政不信に陥ることなく真摯に検討してきたのでしょうか。</p> <p>2007年の教育委員会からの回答は、下記のものでした。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会としても、子どもたちに「あたたかいご飯」を食べさせてあげたいという考えは同じである。</li> <li>・ 現在の施設を利用しての米飯給食は、施設の広さや設備の老朽化などから難しい。</li> <li>・ 給食の話し合いは、「食育」の立場からとても大切。今後も継続して話し合いを進めながら、意見交流を深め、よりよい方向性を見出したい。</li> </ul> <p>この回答はシンプルながら現在の状況をも照らし出していると思います。そこで、現在、保護者（子への愛情）、農業生産者（沼田町の米の魅力）、さらに給食センターの現場（『学校給食衛生管理の基準』のクリア）、教育委員会（財源）などで分散して行われている議論を集中させ、それぞれのスキルと立場を生かし筋肉質の「検討委員会」を設置することにより、政策にスピード感を与え、長年の議論の閉塞感を解放することができると思います。それこそが子どもたちへの私たちの責任であると考えますがいかがでしょうか？</p>
9	津川議員	人口4,000人復活プロジェクトの取り組みについて	<p>昨年度から新たな事業としてスタートした『4,000人復活プロジェクト』は人口減少になんとか歯止めをかけたいという、いわゆる守りの姿勢から4,000人まで復活させるという攻めの姿勢に転じた積極性のみえる取り組みだと評価しておりますが今後とも継続して取り組んで行く考えがあるのかお伺いしたい。継続して行く考えがあるとすれば実現へむけての具体的な方策を示して頂きたい。</p>